

5人の乳がん患者における MGN-3(米糠から抽出された修飾キシロース)の免疫調節および抗ガン作用

Mamdooh H. Ghoneum, Drew University of Medicine and Science, Dept. of Otolaryngology, 1621 E. 120 th Street, Los Angeles, CA 90059 (マンドゥー・H・ゴーンナム、ドゥルー医科大学 耳鼻咽喉科)

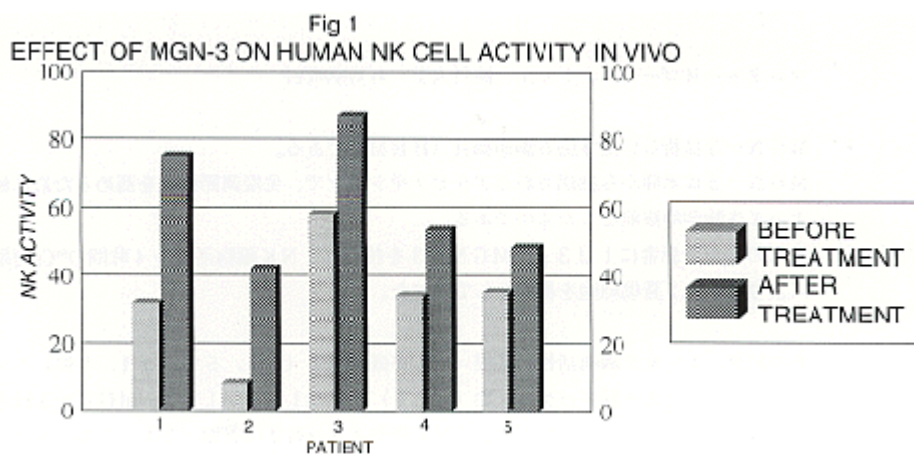
MGN - 3は新しい生体応答調節物質(BRM)である。

MGN - 3は米糠から抽出されたアラビノキシランで、免疫調節機能を高めるために酵素によって生物学的修飾をしたものである。

5人の乳がん患者に1日3gのMGN - 3を投与し、NK細胞活性を4時間の⁵¹Cr遊離測定によりK562腫瘍細胞を標的として調べた。

その結果、

1) NK細胞活性の基礎レベルが低い患者(13.5% - 34.9%)エフェクター対ターゲット比(E:T)12 - 100:1では、MGN - 3投与後同一のE:T比においてNK細胞活性が有意に増加(21.1% - 50.1%)した。(図1)



2) NK細胞活性の増加は試験開始後1 - 2週間以内にみられ、MGN - 3投与の継続によりさらに増加した。

3) 早い時期からこの試験に参加している2名の患者(6 - 8ヶ月前)では、腫瘍の完全緩解がみられた。

我々は、MGN - 3がNK細胞の活性を高度に増加させ、また特筆すべき副作用がみられないことから、MGN - 3が有望なBRMであると結論する。

また、免疫療法効果をもつMGN - 3と化学療法の併用はガン患者の治療に有用であると考察する。

MGN - 3は、大和薬品株式会社(東京都世田谷区三軒茶屋1 - 16 - 19)により提供された。